

2025 年 8 月 10 日発行

いのち・未来 うべ通信 33 号

わたしたちは原発のない安全な未来を
子どもたちに残すことを願って活動しています

〒755-0029 山口県宇部市新天町 2 丁目 8-1

TEL 080-6331-0960 (安藤)

ブログ : <https://blog.goo.ne.jp/nonukes2013>

命の肯定始めよう

岡本正彰 (いのち・未来 うべ代表)

核と原発が同じであることを 僕はいつ頃から気づき始めたのだろう
スリーマイル島で事故が起きても チェルノブイリで事故が起きても 止まらない原発
福島で取り返しのつかない事故を起こしても なお動き続けている原発
こんなものは電力じゃない なんにどうしてしがみつくなのか
戦争のために使う核をいつでも作れるように 核の平和利用という言葉のもとに
「電気」に化けて 動き続けている原発
いつでも戦争ができるように 核を作るために

戦争は多くの人が嫌なのに 多くの人が平和を願うのに
平和という言葉を盾に 動き続けている原発 どこまで繰り返すのか命の否定を
原発がなくては電力不足になるという 嘘 原発が動かなくても電気は余っている
原発はきれいな電力だという 嘘 原発は動いているだけで温排水を出す
動かすことを止めれば 上関に中間貯蔵施設建設計画なんて
押し付けられなくて済むのに

アーサー・ビナードさんは
原爆と原発が同じであることを認識している
原発は不良債権だという
上関原発計画は不良債権建設計画なんだと
原発を止めないことは戦争への道
命の破壊 生物破壊だと話す
アーサー・ビナードさんが宇部へやって来る
アーサー・ビナードさんの話を聞き 考え
命の肯定 始めよう

～ 目次 ～

命の肯定 始めよう	・・・ 1
「核のゴミはいらない！」 全県から声をあげよう！ 参議院選挙の結果について	・・・ 2
過去から現在そして未来へ(その 2)	・・・ 3
伊方原発前追悼集会・ 斎間淳子さんを偲ぶ会に参加	・・・ 5
アーサー・ビナードさん講演会のご案内	・・・ 7
編集後記、第 14 回定期総会のご案内	・・・ 8

「核のゴミはいらない！」全県から声をあげよう！

参議院選挙の結果について

安藤公門（いのち・未来 うべ事務局長）

7月参議院選挙の山口選挙区の特徴は、全国的な自民党の退潮・後退に比して、北村候補は22万票、2位の候補は13万票で差は大きく、自民得票率は37.2%。全国屈指の「保守王国・山口」の現状維持です。その中で立候補した勇気ある戸倉多香子さん。

柳井市で行われた自治会連合の使用済み核燃料の中間貯蔵施設の賛否を問うアンケートでは、74%の人が反対を表明しています。

周南市、光市、柳井市、周防大島町、田布施町、平生町、上関町の3市4町では、いずれの市町でも戸倉多香子さんが2位の得票数で、中間貯蔵施設の建設に反対する住民の意思が示されています。

宇部市も含めてそれ以外の地域は、残念ながら争点に押し上げることができず、敗北です。

政治の場で、私たちの声を形にするには、どんな方法があるのでしょうか。

田布施町のすばらしい手本があります。2月の町議会選挙に半数の6人当選を目指して候補者を立て、全員当選（しかも、上位当選）の快挙を実現し、3月21日には、住民からの要望を実現する中間貯蔵施設反対の議会決議をあげました。3月22日の上関原発を建てさせない山口大集会で報告され、運動の方向を示すものとなりました。上関原発を建てさせない県民連絡会の共同代表による戸倉さん支持の声明となって全県へ呼びかけられました。原発を正面から争点にし、選挙のどまんなかで訴える方向は示されています。

参議院選挙中は、沈黙して原発の争点化を避けていた政府・電力会社は、国産原発の海外への売り込み、福島イノベーションコーストのPR、福井県美浜原発の立地調査など、原発回帰の動きを強め選挙後に大きくキャンペーンしています。そして、焦点となるのが、中国電力による上関町への中間貯蔵施

設の建設の「適地」発表です。

今年12月柳井市議選挙、来年2月4日山口県知事選挙（1月22日告示）が控えています。

私たちの課題は、第一に、使用済み核燃料の中間貯蔵施設に反対する声を全県に広げることです。核のゴミ施設の周辺では危険なことは直感的には理解しやすいですが、核・原発の事故の影響は250kmエリアを越え、全県・西日本全域が影響を受けることは知らないが無関心ですませます。広島原発の死の灰の6万～8万発に匹敵する「核のゴミ」を直視する必要があります。孫や子どもたちの世代のためにも、核施設は残せません。瀬戸内海に核のゴミ施設をつくる政府・自公政権と心中したくはありません。

第二に、原発と原爆・核兵器の脅威が新しい段階を迎えています。トランプ大統領は、イランの核施設への攻撃を「広島、長崎の原爆投下と同じように戦争を早く止めるために行った」と正当化しています。ドローンなどに「弱い」ことも示されています（玄海原発）。「自国民に向けた核弾頭」（河合弘之弁護士）である原発が54基も並ぶ日本。原発をなくすことは、戦争を止め、平和を守る課題と一体です。

第三に、脱原発を中心課題にすえ、政府などの「上にへつらう政治」でなく、住民のための信頼の政治を求める全県横断のグループが必要です。田布施モデルを各市町で実現し手をつなぎましょう。

なお、参議院選挙で話題となった「参政党」現象については、情報の整理と分析を深めながら次号で取り上げます。読者のみなさんのご意見をお寄せ下さい。一言だけ追記すれば、「核武装は安上がり」などと発言する政党は、国民が見向きもしなくなり、一日も早く歴史の屑籠に追い込む大運動が私たちに必要です。

過去から現在そして未来へ(その2)

西村 誠

前回は、宇部市の先人の努力で公害を克服したことについて述べたが、必ずしもこのように大きな問題を起こすことなく公害を克服した例は稀であり、多くの公害発生地域では将来にわたってその被害を引きずっている場合が多い。

その一つの例が四大公害発生地の一つ、熊本県の水俣だ。明治時代、水俣は地方の半農半漁の町で、また林業で木材を山から伐採、港から対岸の天草などへ発送する小さな町だった。チッソの創始者である野口遵(したごう)は明治の後期、南九州の豊富な水資源を元に水力発電する電力会社をつくった。

野口遵は 1873 年 7 月 26 日、金沢の士族の家に生まれ、のちに現在の東京大学工学部電気工学科を卒業後、いくつかの会社を経たのちに曾木電気を設立。鹿児島県の大口に曾木水力発電所を開いた。その余剰電力を元にカーバイド製造に乗り出し、その工場は当初鹿児島県内につくる予定であったが、視察に寄った水俣で、衰退して土地の余った地元の塩田地主の水俣までの送電線の設置費用を負担するなどの強力な誘致活動に従って、1907 年 日本カーバイド商會を設立し、水俣でカーバイドの製造を始めた。水俣湾は島などに囲まれ波穏やかな海であり、湾内は豊富な漁場であったが、徐々に工場からの排水で海が汚れ漁業者との対立が深まり、1926 年には今後一切苦情を言わないとの約束で見舞金を支払うこともあった。

その後九州各地に水力発電所を、八代、延岡などに新しい工場をつくった。1930 年代にはチッソは国内化学会社をリードするまでに成長し、その勢いは日本の朝鮮、中国への進出とともに朝鮮、中国東方部に大きな水力発電所をつくり、朝鮮の東側日本海に臨む興南では東洋一と言われる電気化学コンビナートをつくり、硫安、苛性ソーダ、火薬、合成ゴムをはじめとした多くの製品をつくっていた。

1932 年、水俣工場ではアセチレンから水銀触媒を使いアセトアルデヒドを生産し始めた。この過程から無処理の有機水銀を含む排水が「百間(ひゃっけん)排水口」から水俣湾そして不知火海へと放出された。また 1941 年からは、同じくアセチレンからやはり水銀触媒を使って塩化ビニールが生産され始め、これからも有機水銀を含む排水が放出され始めた。そして早くも 1942 年には水俣市月浦地区で水俣病患者が発生したことが、後日熊本大学の研究班にて報告されている。



現在の「百間排水口」：西村撮影(2016.11.1)



「百間排水口」の説明看板：西村撮影(2016.11.1)

しかし、敗戦とともにチッソは海外の資産を一気に失い、それは国内を含めた総資産の約 90%を占めていたとも言われている。

海外から引き揚げてきたチッソの関係者は興南工場からだけでも 3 万人とも言われ、帰国後は国内の工場の上層部を占めるようになってきた。

水俣工場も空襲で大きな被害を受けたが、終戦の 2 カ月後には肥料の生産を、翌年にはアセトアルデヒドの生産を再開した。そして戦後の復興とともに工場の生産は飛躍的に伸び、それに従って有機水銀を含む排水は増えてきた。

工場排水の増大とともにその影響は広がり、まずは漁業被害が多くなり、関係者の訴えで県の現地調査があったが、それが生かされることはなかった。一方チッソ工場の技術部でもアセトアルデヒドの生産過程で有機水銀の生成が確認されたが、その声も生かされることはなかった。

その後水俣病は顕在化してくることとなった。まずは 1953 年、水俣市出月で 5 歳児の発病が後日確認された。

そしてその悲劇は静かに広く広がり始めた。まずは海の魚が死に始め、それを食べた鳥が突然地面に落ち、また猫はよだれを垂らしそこらを回り始め、中には突然海に飛び込み、火の中に飛び込むものも現れた。漁師の家では網を食い漁るネズミの防御にどこの家でも猫を飼っていたが、その猫がいなくなりネズミが大量発生し、漁師は悲鳴を上げ他から猫を取り寄せてくるが、しばらくするとその猫もいなくなる。

そしてその毒牙はついに人に、1956 年 4 月 21 日、最初の患者(5 歳の女兒)がチッソの付属病院を受診そして入院となり、その妹もまた他に 2 名が入院となった。

この原因不明の脳疾患児の多発に異常を感じた病院の細川院長は 5 月 1 日に水俣保健所に報告、これが水俣病の公式確認の日となった。

その後水俣市に「奇病対策委員会」が、また熊本大学に「医学部水俣奇病研究班」が設置され、現地調査の結果、約 30 名の患者が確認された。

また 9 月には県が国に報告、症状は感覚障害から運動機能障害、視力障害、聴力障害に加え、激しい震えを伴っているとの報告だった。

11 月には厚生省の現地調査があり、奇病の原因は工場の排水以外には考えられないとの報告だった。

その後患者や死者は増え続けるが、ここで県や国の後ろ向きな姿勢が見え隠れすることとなった。

まずは熊本大学での研究会報告で、水俣病は脳が侵される中毒症状であり、その毒は水俣でとれる魚介類の中に含まれている、したがって漁獲を禁止する必要があるとの報告をしたが、熊本県では、漁業法による漁獲禁止も食品衛生法による禁止も、原因物質がはっきりしない限りできないとした。また国の各省対策懇談会でも、原因物質がわからなければ対策をとらないといったこととなった。

これにはチッソという企業の水俣市への影響はもちろん、県や国に対しても、戦後復興、経済の高度成長を支えている企業へのあからさまな横やりは入れたくないといった考えが働いていたと思われる。

その後、厚生省の技官が水俣病は公害病であるとの論文を出し、第二第三の水俣病の発生の警告を出すもみ消されてしまう。1958 年に熊本に来た英国の神経学者が患者の症状を有機水銀中毒に似ているとの指摘を出すも、これも大きく取り上げられることはなかった。

そしてチッソはさすがに水俣病患者が水俣湾沿岸に出ていることを危惧したか、工場排水口を、工場排水の沈殿プールを経て北側にある水俣川河口に変更した。これにより有機水銀を含んだ排水が有明海全域に広がることとなった。

有機水銀の毒性については 1860 年代に英国ですでに取り扱っていた技術者が中毒を起こし亡くなっていることの報告があったが、熊本大学の武内教授が水俣病は英国のハンター・ラッセルが報告した有機水銀中毒例に合致するとの報告を出すことによって、以後、水俣病はハンター・ラッセル症候群としてとらえられるようになった。(次回に続く)

伊方原発前追悼集会・斎間淳子さんを偲ぶ会に参加

村上ひとみ

上関や平郡島から伊方原発が見える

5年ほど前、上関町長島原発予定地、田ノ浦に向かう途中、小中進さんの案内で伊予灘の向こうに伊方原発が見えることを教えて頂きました。今年1月に柳井市平郡島に井上重久さんを訪ね、美しい五十谷の浜から祝島、長島だけでなく、南に佐田岬半島と伊方原発の建屋が見え、南海トラフ巨大地震が起これば大津波や地殻変動で原発被害が心配です。フェリーと鉄道で伊方へ、周防灘一周の一人旅を思い立ちました。



図1 上関と伊方原発の立地（電子国土に加筆）

齋間淳子さん追悼集会・伊方原発前

大分在住の大原さんに、「原発さよなら四国ネットワーク」の土居さんを紹介頂き、原発反対に生涯かけて活動してきた八幡浜の斎間淳子さんが4月に享年 81 歳で亡くなり、5 月 11 日の伊方原発ゲート前行動では斎間さん追悼集会、午後から偲ぶ会という案内を頂いたのです。

伊方原発の計画から住民反対運動、差し止め訴訟など、50 年にも及ぶ過酷な運動の経緯を何も知らず、南海日日新聞で原発報道を続けた夫の斎間満氏（故人）の著書を、急ぎ取り寄せた次第です。

集会前日、床波～新山口～柳井港を **JR** で乗り継ぎ、柳井港から三津浜港へ、周防大島など瀬戸内海の島々を眺めての船旅、**JR** にて夕方八幡浜に到着。

ホテルは港の近くで、南海トラフの津波ハザードマップで浸水危険エリアにある。八幡浜は懐かしい街並み、朝食前に漁港・道の駅の方へてくてく散歩。ホテル7階食堂の窓からは、細長く西へ伸びる佐田岬半島と別府や臼杵に向かうフェリーも見える。

偲ぶ会の朝、土居さんの車に同乗して、八幡浜から 30 分ほど、狭くカーブの続く国道 197 号線（通称：いくな国道）で八西（はっせい）トンネルを超え、佐田岬半島の尾根道へ出る。伊方町役場を南側下方に見て、道の駅 伊方きらら館へ。伊予灘から北の海を臨むと、平郡島や上関町八島らしき島影が海上に浮かんでいる。尾根から北側へアピンカーブを下って原発前へ。



写真1 伊方原発ゲート前



写真2 伊方ゲート前追悼集会の様子

伊方原発ゲート前には30人余が集まり、横断幕や旗を立てて、追悼集会が始まる。主催者の「伊

方から原発をなくす会（以下なくす会）」事務局長・秦さんが冒頭あいさつ：「四国電力伊方原発関係者に断固抗議します。原発計画、建設から稼働に至る 50 年余にわたり、あなた方が斎間さんにどれほど過酷な攻撃、嫌がらせを繰り返してきたか、知らないとは言わせない。剃刀や着払いの荷物を送りつけ、斎間さん家族の生涯にわたりどれほどの加害を繰り返したか。それほど、原発は人道・人権に反する危険な施設です。」



写真3 在りし日の斎間淳子さん（右）



写真4 伊方原発 左から廃炉の1・2号機、稼働3号機

進行の名出さん（原発さよなら四国ネットワーク・副代表）：「四国電力本社のある高松市に住み、斎間さんと出会い、伊方原発を止める運動に関わるのは 2011 年の福島原発事故以来でした。もっと早く止まらと思ったが、既に 14 年が経過、徹底抗戦で頑張ります。」

宇和島市議の榎野さん：「原発計画は最初に宇和島に合併前の津島町に持ち込まれ、町民・漁民の猛反対で計画を撤回させた。その後、伊方町では四国電力が秘密裏に役場や議会に根回し・土地買収を進め、報道させない陰湿な方法で住民・漁民の反対を抑え込んだ。女性議員の活動に難しさはあるが、伊

方を廃炉に、再稼働させない運動を支えたい。」

「八幡浜・原発から子どもを守る女の会」の挨拶では、斎間さんと共に有機野菜取り寄せを通して、原発の放射能汚染に気づき運動を始めたこと、小さな地域で運動への攻撃や差別が絶えず、長年の苦勞に堪えての思いが語られました。子どもには、「学校で四電社員の子供が休んだらすぐ帰宅するよう」言い聞かせた（原発事故の情報は出さないが、社員家族の命は守ろうと避難させるはず）という。子どもの日常に緊張を強いる原発の怖さを感じる。

大阪から参加の女性、村上さん：「徳島で高校 3 年の時、311 福島事故が発生、大学で原発反対のサークルに入り、伊方の抗議行動に仲間と通い続けた。斎間さんの思い出は、お宅でミカンを頂いたこと、学生には優しかった。卒業後は大阪で暮らし、会えないまま今日になったのが悲しい。でも、懐かしい皆さんに会えてありがたい。大阪では『老朽原発動かすな、核のゴミの行き場はない』の活動している。」

自分は斎間さんに面識はなかったけれど、挨拶させて頂いた。「上関では原発に加えて使用済み核燃料中間貯蔵がもちあがり、田布施町では今年 2 月の町議選で中間貯蔵反対の議員が増え、反対決議を可決した。伊方と上関で共に頑張りましょう！」

フェリーターミナルで偲ぶ会

ゲート前集会の後、車で八幡浜フェリーターミナルへ向かう。港の見える展望の部屋に、斎間さんの写真と献花が並び、30 人ほどが座っている。ゲート前集会参加者に加えて、元・愛媛県議の阿部悦子さん、現・愛媛県議の武井多佳子さん、他のあいさつ。大分県からピースサイクル・池田さんが、ギター片手に「原発を止めてゆけ」と歌い、思いを共感し、心なごむ時間となりました。大切な会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。

文献 1) 斎間満：『原発の来た町 原発はこうして建てられた 伊方原発の 30 年』、南海日日新聞社、2002 2) 原発を問う民衆法廷第 2 回大阪法廷 申立人・斎間淳子さんの意見陳述、2015

<https://nonukesiga.exblog.jp/16187932/>

9/15 アーサー・ビナード講演会

エネルギーの「明るい未来」を さがして、さがして、

アメリカ生まれの詩人と一緒に
ニッポンのこれからをさぐります。

峠三吉の『原爆詩集』は、「ちちをかえせ ははをかえせ」の冒頭のことばでみんな知っています。

しかし、アーサー・ビナードさんは、そこで終わってしまっては詩人の訴えを理解したことにならないと解説で説明しています。

詩集全編を読み込み、生存する関係者に話を聞き、広島のマチを歩き、『さがしています』（2012年 童心社）に結実させます。

人類が核を兵器として使い始めて80年。

核廃絶の願いは、どの段階にあるのでしょうか？

アメリカのハンフォード（長崎原爆のプルトニウムを開発した拠点）のリッチランド高校の校章は、戦争をはやく停めた「誇り」をこめて「きのこ雲」が使われています。※ トランプ大統領は、イランの核施設の攻撃を正当化して、「戦争を早く終わらせるために広島、長崎と同じように核を使う」と広言しています。すぐそこに、全面核戦争の脅威があり、すぐ側にドローンひとつで核兵器に転化できる原発という「核弾頭」を抱えている私たち。

明日にでも大地震があり、福島を上回る原発震災に襲われても、「起こるべくして起こった」と私たちは、納得せざるを得ない。生き残っていれば、ですが。



冒頭の峠三吉の詩は、「にんげんのにんげんのよのあるかぎり くずれぬへいわを へいわをかえせ」と結ばれます。原爆・原発体制を、どうしたら終わらせることができるのでしょうか。アーサー・ビナードさんと一緒に、原爆・原発をなくす原点の言葉を探しましょう。

※宮本ゆきさんの対談（19分頃から）⇒



と き：2025年9月15日（月、祝日）14:30～16:30 講演（14:00 開場）

ところ：宇部市福祉ふれあいセンター 2階ふれあいホール

前売券：500円 追雲堂美術館等・電話/メール予約 OK（当日券 800円） 学生無料

主 催：いのち・未来 うべ（宇部市新天町2丁目8-1）

代表：岡本正彰 連絡：080-6331-0960（安藤）

第47回 9条茶話会 障害当事者から見える 原発と戦争

日時:2025年8月16日(土)13:30~15:30

場所:日本基督教団宇部緑橋教会

1階礼拝堂

(住所:宇部市常盤町1-1-9)

講師:岡本正彰

入場無料

原発は戦争の道具である核兵器を作るためのもの、戦争で障害者は役に立たないからと言われ、殺され、虐げられ、差別されたこと、その差別は戦後も残っていること、福島原発事故が起こった時、障害者は避難することが難しく、置き去りにされたことなどを重度障害者の立場で、お話できればと思います。

いのち・未来 うべ事務局の住所変更の お知らせ

市民活動センター「青空」の移転に伴い、下記の住所となります。

〒755-0029 宇部市新天町2丁目8-1

～ 編集後記 ～

7月20日投開票の参議院選挙では、私たちが支援した戸倉多香子さんは、残念ながら力及ばずでした。選挙戦では、中間貯蔵施設反対を争点にできなかったことが反省点として残ります。

今回の選挙では、参政党が支持を伸ばしました。参政党は上関の中間貯蔵施設計画については態度をにごしましたが、原発には推進の考えです。「核武装は安上がり」、「原子力潜水艦を佐渡ヶ島に配備する」などという暴論は許せるものではありません。原発は「平和利用」のかたちをとって、核武装の準備のためのものです。参政党の主張は、自公政権を批判するポーズをとりつつ、原発推進と核武装を進めるものです。(編集部 0)



中間貯蔵施設反対のポスターを
全県に貼りましょう

いのち・未来 うべ

第14回定期総会とアーサー・ビナード講演会

とき:2025年9月15日(月、休日) 13:00~16:30

ところ:宇部市福祉ふれあいセンター

第1部 13:00~14:00 総会(3階第1講座室)

第2部 アーサー・ビナード講演会 14:30~講演(14:00開場)
(2階ふれあいホール)